

座間市青少年指導員協議会だより

きづな

第68号

発行日 令和8年1月1日

発行 座間市青少年指導員協議会

住所 座間市緑ヶ丘1-1-1

電話 046(252)8405

第40回座間市民ふるさとまつり

11月9日(日)に座間中学校グラウンドで開催された毎年恒例のふるさとまつりですが、当日はあいにくの空模様で、雨が降ったりやんだりのはっきりしないお天気でした。雨はうとうしく、足元が悪いため、歩くのも大変でした。そんな状況でも子どもたちは元気いっぱいです。



青少年指導員のブースでは、昔懐かしの「スマートボール」と「お絵かきコーナー」を行い、子どもたちに楽しんでもらいました。天候が良ければ「釣り堀コーナー」も予定していたのですが、雨のためにテント内で行える遊びだけになってしまいました。釣り堀で使うはずの発泡スチロール製のトレイに絵を描くというだけでも、とても一生懸命にオリジナルの絵やキャラクターの絵を描いてくれて「ほら、できた！」と笑顔で見せてくれる姿にはほっこりしました！

スマートボールは、デジタルゲーム世代の子どもたちにもとても楽しんでもらえて、単純なゲームではありますが、玉を弾く力を加減したり、玉の行方を見て入るか入らないか一喜一憂する姿に指導員もとても癒やされました。



午後にはヒーローショーも始まりましたので、さすがにヒーローには敵わず、子どもの姿がブースからいなくなりましたが、その後また賑わってくれました。

子どもたちの楽しそうな笑顔を見ていると、こういうアナログな遊びや心あいは、この先も残していきたいなあとつくづく思います。



各地区協議会から

令和7年度青少年フェスティバル

座間中学校区

第32回青少健ふれあいまつり

11月29日(土)

ちよっぴり北風が吹き肌寒さを体感する気候の中、青少健ふれあいまつりを開催できました。今年のスローガン、「育もう子どもの未来 地域で見守る青少健」を掲げ地域の方々の協力をいただき、子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごしました。私達の出店ブースでは、人気の「缶バッヂ」作りを体験していただきました。図柄はざまりんイラストや自分でデザインしたものなどで、時間帯によっては長蛇の列となっていました。

他にも、ふれあい体験やゲーム、フードコーナーなど盛り沢山の内容で、おまつりの名物の一つに豚汁があり、地元で栽培された野菜を用い、とてもおいしくでき上がり多くの方がおかわりする姿がありました。開催に当たりご尽力をいただいた皆様に感謝申し上げます。



西中学校区

楽しく部活動体験

12月6日(土)



12月6日に開催された青少年フェスティバルは、小学6年生を対象に「部活動体験会」を行いました。小学生64人、中学生300人の参加がありました。今年はグループ分けをせずに自由に回り、中学生に優しく教えてもらいながら一緒にスポーツしたり工作したり楽器に触れたり歌ったりと、活動を見たり体験をしました。

全部活くる子、2~3部活集中してくる子…中学生も将来の後輩たちに部活動の紹介や楽しさを伝えるという予行練習にもなり、それぞれとても楽しそうな笑顔が印象的で活気溢れたイベントとなりました。

閉会式後はPTAさん・青少年指導員等が作った美味しいカレーを食べました。みんなで食べるカレーは毎年大好評で、おかわりする子もたくさんいました。フェスティバルに携わってくださいました皆様、本当にありがとうございました。



東中学校区

めっちゃ遊んで お腹いっぱい食べた～！

12月7日(日)

今年度は、中学生のドッジボール対抗戦だけでなく、小学生(5、6年生)のドッジボール大会も行いました。どちらも大きな声援を受けて大いに盛り上がりました。また、いつものゲームコーナーは、東中フェススタンプラリー「いっぱいあそんでおかしをもらっちゃおう！」としてアピール。子ども達はごほうび付きということもあり、いつも以上に楽しんでくれたようです。今年のはしご車試乗体験も抽選で20人という狭き門でした。ワクワクしたけどちよっぴり怖かったかな？ でもなかなかできないすごい体験だったね。

東中恒例の大鍋カレーはベテラン奉行達のおかげで美味しくできました。

物価高の折、他校指導員のご厚意によりお米を分けて頂き大変助かりました。

350人余りの参加者が思い思いに大いに楽しんで美味しいカレーをお腹いっぱい食べてフェスティバルは無事終了しました。参加してくれた子ども達ありがとう！



栗原中学校区

防災を学び、思いやりの心に包まれて

12月19日(金)

14時30分から栗原中学校区青少年フェスティバルを市長、教育長にもご参加いただき、小中学校生徒約180人で開催することができました。今回は、ストラックアウトやモルックなど、いつもの種目に加え、紙ヒコーキ飛ばし選手権とビー玉万華鏡を取り入れました。一番盛り上がったのは、紙ヒコーキ飛ばし決勝。どうすれば遠くまで飛ぶか工夫し自信満々に決勝に挑んだ選手に対し、クラスメイトが応援する姿に感動しました。



また、栗原中学校の教育目標の1つ「防災を学ぶ」にちなんで防災食としてアルファ化米の炊き出し実演を実施。小・中PTA役員の皆さんにご協力いただき防災に対する意識を高めることができました。終了後にアルファ化米（五目ご飯）とお菓子を配布し参加者全員が喜び楽しんだ青少年フェスティバルになりました。

ご協力いただきました先生方、PTA役員の皆さんに感謝申し上げます。

相模中学校区

おいしい 楽しい また来てね！

12月13日(土)

青空の下、相模中学校コミュニティ・スクールと相模中学校区青少年指導員との共催で相模中コミスクリスマスと青少年フェスティバルが協同開催されました。PTA、地区社協や地域の関係団体の協力を得て、和太鼓の演奏、一輪車の演技、輪投げ、スピードガンコンテスト、ストラックアウト、イライラ棒、スマートボール等を行い、大盛況でした。

景品で相模中オリジナルのざまりん缶バッジも、大好評でした。卒業生によるBMX競技や在校生によるギターコンサートや合唱部のステージも大いに盛り上りました。ポップコーンやお菓子の配布も喜ばれました。今年も熱々の豚汁や五目ご飯を何百食も用意したのですが、あっという間に完食となり、来校されたみなさんはきっと満足されたと思っております。



南中学校区

遊んで、遊んで、遊んで、遊んで、サプライズも

12月6日(土)

12月6日、南中学校区青少年フェスティバルが開催され、児童・生徒と地域が一体となって冬の一日を楽しみました。体育館では紙ヒコーキ飛ばし、グラウンドではスカットボールや竹馬体験などのコーナーが設けられ、友だち同士で競い合いながら笑顔を弾けさせていました。終盤には、サプライズとして校長先生とのジャンケン大会を開催。勝ち残った子どもたちには会場から歓声が上がり、大盛り上がり。さらにその後には“大人限定ジャンケン大会”も行われ、子どもたちが声援を送る中、スタッフや地域の人たちが真剣勝負を繰り広げました。遊びと交流がぎゅっと詰まったフェスティバルは、世代を越えて笑顔が広がる南中学校らしい温かな行事となりました。



野外部研修会 8月31日(日)

今回の野外部研修は、相模原市のJAXA宇宙科学研究所相模原キャンパス見学及び相模原市立博物館のプラネタリウム観賞です。JAXAでは主に小惑星探査機「はやぶさ2」の探査目的や地球への帰還の難しさなどを解説員が説明してくださいました。2020年12月地球に帰還した「はやぶさ2」は、その後別的小惑星の探査のため再び宇宙へ向かったそうです。

7月にリニューアルオープンしたプラネタリウムでは、世界最高峰の全天周映像を体験してきました。プラネタリウムに映し出される星空の美しさ、映像の臨場感に感動しました。



文化部研修会 10月19日(日)

「座間の郷土食材を使った料理を学ぶ」をテーマに座間市民健康センター栄養指導室にて文化部研修が行われました。座間市食生活改善推進団体ひまわり会の皆さまのご指導のもと、どのグループも和気あいあいと調理に取り組み、楽しく美味しく笑顔もいっぱいお腹もいっぱいの研修となりました。今回のメニューはかて飯、じゃが芋のみのむし揚げ、けんちん汁、切干大根と豆のサラダでした。簡単に作れ栄養もバッチリ！見た目がとても豪華で素晴らしいメニューでした。ひまわり会のみなさまありがとうございました。



座間市・大和市合同研修会 9月28日(日)

今年はサニープレイス座間にて大和市との合同研修会を行いました。かつて神奈川県青少年指導員総会で言った一言「近隣市と交流を持ちたい」…それに答えてくれたのが大和市でした。それからず~っと続いています。研修場所と内容は交互に各市で考えます。役員会で何度も話し合い、遊び道具作り(ビー玉万華鏡、ぐるぐるヤジロベー、ブンブンゴマ)、電気パンに決まりました。

早朝から多くの参加者が来場、それぞれ再開を喜び合っていました。盛り沢山の内容に不安もありましたが各班作り上げ歓声があがっていました。

ビー玉万華鏡はのぞくとキラキラの美しさ。針金で作ったらせんを伝って階段を降りるように落ちてくるヤジロベー、ひもを左右に引くとまわるブンブンゴマ(苦労がありました…)どれもとってもおもしろい。電気パンは全部の班が成功、美味しく食べていただきました。指導者の心中は「あ～成功、良かった」と安堵しました。この楽しい交流はいつまでも続けて行きたいです。



きずなは、市のホームページから
もご覧いただけます。



きずな
座間市マスコットキャラクター

編集後記

コロナ禍で一時活動中止や縮小された時期から徐々にこれまでの以前のような活気ある生活スタイルに戻りつつあります。毎年イベントなどの取り組み等を検討する中で、私達自身が体験や新たな発見・出会い・気づき、また役割などから子ども達や教職員・地域の方々と交流を持ち活動をしています。

活動内容もその時々の社会状況や異常気象などで変更等が生じていますが、今後も各学区の指導員と共に連携し楽しみながら活動をしていきたいと思っています。

（きずな編集部：佐久間 順夫）